

一般社団法人 日本原子力学会
第 61 回 標準委員会 (SC) 議事録

1. 日時 2015 年 6 月 12 日 (金) 13:30~16:35

2. 場所 5 東洋海事ビル D 会議室

3. 出席者 (敬称略) (開始時)

(出席委員) 関村委員長, 青柳 (途中退室), 伊藤, 大鳥, 岡本 (太), 河井, 喜多尾,
越塚幹事補佐, 清水, 高橋, 谷本, 津山 (途中入室), 鶴来, 寺井, 中井,
西野, 萩原, 藤森, 渡邊 (19 名)

(代理出席委員) 波木井順一 (東京電力/姉川委員), 成宮祥介 (関西電力/山口幹事),
馬田 和明 (九州電力/岡野委員) (3 名)

(フェロー委員) 成合, 宮野 (2 名)

(欠席委員) 有富, 井口, 岡本, 小原, 吉原, 本間 (6 名)

(常時参加者) 伊藤 (1 名)

(欠席常時参加者) 増原 (1 名)

(説明者) 【シミュレーションの信頼性分科会】中田主査, 田中幹事 (2 名)

(オブザーバ) 仙波毅 (原子力安全推進協会), 都筑康男 (原子力安全推進協会), 北
嶋宜仁 (日本原子力発電), 百々 隆 (原子力学会理事) (4 名)

(事務局) 中越, 谷井 (2 名)

4. 配布資料:

SC61-0 第 61 回標準委員会議事次第 (案)

SC61-1 第 60 回標準委員会議事録 (案)

SC61-2-1 人事について (標準委員会)

SC61-2-2 人事について (専門部会)

SC61-3 「シミュレーションの信頼性確保に関するガイドライン 201X」の概要の英訳
の修正について

SC61-4 「余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法 (案)」公衆審査結果

SC61-5 「原子力発電所の高経年化対策実施基準の改定 (追補 1)」標準委員会決議投票
結果

SC61-6 「原子力発電所の地震を起因とした確率論的リスク評価実施基準: 2014」新旧
比較表 (抜粋)

SC61-7-1 「リスク評価の理解のために」意見投稿結果

SC61-7-2 「リスク評価の理解のために」に関するコメントとそれへの対応

SC61-7-3 原子力安全検討会以後の修正

SC61-8 「クリアランスの判断方法: 2005 (AESJ-SC-F005: 2005)』初版第 11 刷の正
誤表

SC61-9 「標準の手引き: 2010」“免責条項”

SC61-10-1 「PWR 分析標準 (ほう素、溶存水素、放射性よう素)」5 年毎の改定要否の検
討結果

- SC61-10-2 「PWR 分析標準（ほう素、溶存水素、放射性よう素）」改定不要システム安全
専門部会決議投票結果
- SC61-11-1 標準活動基本戦略タスク 2015 年度第一回 議事録
- SC61-11-2 標準委員会活動全体計画（案）（年間工程表）
- SC61-12 平成 26 年度第 7 回理事会議事録
- SC61-13 原子力安全検討会の実施状況について
- SC61-14 深層防護WS の実施計画について
- SC61-15 安全性向上対策採用の考え方に関するタスクの審議状況（その 4）
- SC61-16 3 学協会及び標準活動基本戦略タスクでの学協会規格整備計画の検討状況
（その 13）
- SC61-17 2015 年秋の大会 標準委員会企画セッション等
- SC61-18 ASME/ANS/JCNRM における「日本の国際ワーキンググループ（JIWG）」の設置
にかかる対応について
- SC61-19 専門部会活動状況報告
- SC61-20 標準委員会の活動状況

参考資料

- SC61-参考 1 標準委員会委員名簿
- SC61-参考 2 標準委員会開催スケジュールについて（案）

5. 議事内容

事務局から開始の時点で委員（フェロー委員含め）30 名中、代理委員を含む 23 名の出席があり、委員会成立に必要な委員数（20 名以上）を満足している旨、報告された。

（1）人事について（SC61-2-1, SC60-2-2）

事務局配付資料の SC61-2-1, SC61-2-2 に基づいて、標準委員会、専門部会の人事について以下の通り審議を行った。

なお、人事案件は、対象者の退席を得て、委員のみの自由討議を経て、審議し確認、決議又は承認の手続きとなる。

a. 標準委員会人事

標準委員会での下記の確認、決議又は承認事項について、審議の提案があった。

① 委員再任の承認

谷本 亮二（三菱マテリアル）、鶴来 俊弘（中部電力）

② 委員の所属変更の確認

山口 彰（大阪大学→東京大学）

審議の結果、提案は確認又は承認された。

b. リスク専門部会人事

部会での下記の確認事項について、審議の提案があった。

① 委員退任の確認

桐本 順広（電中研）（津波 PRA 分科会代表者としての委員）

橋本 和典（原子力安全推進協会）（火災 PRA 分科会代表者としての委員）

村田 尚之（原子力安全推進協会）（内部溢水 PRA 分科会代表者としての委員）

② 委員再任の確認：村田 尚之（原子力安全推進協会）

③常時参加者登録の確認：鈴木 俊一(東京大学)，菅谷 淳子(日本エヌ・ユー・エス)

審議の結果，提案は確認された。

c. システム安全専門部会人事

部会での下記の確認又は承認事項について、審議の提案があった。

① 委員退任の確認：河井 忠比古(原子力安全推進協会)，中村 隆夫(大阪大学)

② 委員再任の確認：後藤 大輔(グローバル・ニュークリア・フュエル・ジャパン 卷上 毅司(東京電力)，小野岡 博明(関西電力)

③ 委員所属変更の確認：勝村 庸介(東京大学→日本アイソトープ協会)

④ 常時参加者登録の確認：河井 忠比古(原子力安全推進協会)

審議の結果，提案は確認された。

d. 基盤応用・廃炉技術専門部会人事

部会での下記の確認事項について、審議の提案があった。

① 委員再任の確認：伊藤 英一郎(東京電力)

② 委員所属変更の確認：山口 彰(大阪大学→東京大学)

③ 常時参加者登録の確認：工藤 義朗(原子力規制庁)

④ 常時参加者登録解除の確認：笠原 文雄(原子力規制庁)

審議の結果，提案は確認された。

e. 原子燃料サイクル専門部会人事

部会での下記の確認又は承認事項について、審議の提案があった。

① 委員退任の確認：大島 寛(国土交通省 海事局)

② 委員選任の承認：伊藤 真澄(国土交通省 海事局)

審議の結果，委員退任については確認されたが，委員選任については，“標準委員会運営委内規”に基づき，メールによる承認決議を行うこととなった。

(2) 前回議事録の確認(SC61-1)

前回議事録(案)について配付されていた案で承認された。

(4) 【報告・審議】「シミュレーションの信頼性確保に関するガイドライン 201X」の概要の英訳の修正について(SC61-3)

シミュレーションの信頼性分科会の中田主査，田中幹事から事務局配付資料のSC61-3に基づいて，“シミュレーションの信頼性確保に関するガイドライン 201X”の概要の英訳の修正について報告があった。審議の結果，概要の英訳の修正は編集上の修正であること及び、この修正内容で公衆審査に移行することが決議された。

(5) 【報告・審議】「余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法：20XX(案)」公衆審査結果(SC61-4)

事務局から事務局配付資料のSC61-4に基づいて，“余裕深度処分対象廃棄体の製作要件及び検査方法：20XX(案)”の公衆審査の結果，意見がなかったことが報告された。

審議の結果，制定され，発行することが決議された。

(6) 【報告・審議】「PLM基準の追補1案」標準委員会決議投票結果 (SC61-5)

事務局から事務局配付資料の SC61-5 に基づいて、“PLM基準の追補1案”の標準委員会決議投票の結果、意見がなかったことが報告された。

審議の結果、1ヶ月間の公衆審査に移行することが決議された。

(7) 【報告・審議】「原子力発電所の地震を起因とした確率論的安全評価実施基準:201X」の追加の修正について (SC61-6)

地震PRA作業会の成宮幹事から事務局配付資料の SC61-6 に基づいて、“原子力発電所の地震を起因とした確率論的安全評価実施基準:201X”の追加の修正について報告があった。特に質疑等はなく、審議の結果、追加の修正は編集上の修正であること及びこの内容で発行することが決議された。

(8) 【報告・審議】「リスク評価の理解のために」意見投稿結果及びその対応について (SC61-7-1, SC61-7-2, SC61-7-3)

事務局から事務局配付資料の SC61-7-1 に基づいて、“リスク評価の理解のために”の意見投稿結果について報告があった。引き続いて、原子力安全検討会リスク活用分科会の村松主査と成宮幹事から事務局配付資料の SC61-7-2, SC61-7-3 に基づいて、意見対応等について報告があった。主な質疑等は以下のとおりである。

Q:PRAは予防原則の基準が適正かどうかをみるということが必要ではないのか？

A:大きなコンシクエンスをもたらすものは合理的に実行可能な判断を行なうことが重要であり、そのためにPRAが役立つと考えた。

C:不確かさがどの程度か、最初は判らないと思う。

C:リスク評価もよいが、リスクマネジメントが重要。日本ではリスクマネジメントへの適用が出来ていない。

A:本テキストにリスク活用の様々な種類を挙げている。参考になると思う。

C:予防原則という言葉が安易に使うのはよくない。また「悪用」という言葉も慎重に使うこと。

A:表現を見直す。

C:5.4のタイトル「疑問・批判」は前向きな言葉に直す方がよい。

C:今までもリスクには取り組んできたが、広く見ていなかった。

C:組織因子や人的因子に関しても検討が必要。

A:少しだが書き加えることを検討する。

C:学会の分科会で検討したことが明確になるように「著者が」の表現を見直すこと。

審議の結果、出された意見について修正を行い、発行することが決議された。平行して標準委員会委員が修正結果を確認できるようにHPからダウンロードできるようにすることが決められた。

(9) 【報告・審議】ASME/ANS JCNRMにおける「日本の国際ワーキンググループ (JIWG)」の設置にかかる対応について (SC61-7-18)

リスク専門部会の成宮幹事から事務局配付資料の SC61-18 に基づいて、ASME/ANS JCNRMにおける“日本の国際ワーキンググループ (JIWG)”の設置にかかる対応につ

いて報告があった。

主な質疑等は以下のとおりである。

C：ASMEはこちらからの情報を吸い上げてしまうので十分注意すべきだ。

A：資料にも書いたように、成果の取り扱いについてはリスク専門部会でも対応を真摯に考えている。ASME/ANS サイドは原子力学会の地震 PRA 標準や津波 PRA 標準に興味がある、とも聞いている。双方の利得があると思うのできちんと覚書などを交わして対応したい。

C：吸い上げられるという意識の共有に止まっていたのでは進まないのでは、レターを正式に返信すること。標準委員会の名前で返すこと。

審議の結果、提案する対応を標準活動基本戦略タスクで検討し、リスク専門部会で内容の検討を行うことが決議された。

(10) 【報告・審議】「クリアランスの判断方法：2005 (AESJ-SC-F005：2005)』初版第11刷の正誤表について (SC61-8)

事務局から事務局配付資料の SC61-8 に基づいて、“クリアランスの判断方法：2005 (AESJ-SC-F005：2005)” 初版第11刷の正誤表について報告があった。主な質疑等は以下のとおりである。

- ・誤記対応については、3学協会ではどういうものについて次の版で訂正するかまたは誤記表を作成するかを検討している。

- ・誤記は見つかれば速やかに公開するのが原則である。

審議の結果、3学協会で検討している内容を踏まえ標準活動基本戦略タスクでどういうものを正誤表にするかについて取り纏めること並びにその内容について標準委員会で審議すること及び本件はその結果に従うこととなった。

(11) 【報告・審議】「標準の手引き：2010」“免責条項”中の記載について (SC61-9)

事務局から事務局配付資料の SC61-9 に基づいて、“標準の手引き：2010” “免責条項”について報告があった。

審議の結果、本件について、標準活動基本戦略タスクで検討することとなった。

(12) 【報告・審議】「PWR 分析標準の改定不要」システム安全専門部会決議投票結果 (SC61-10-1, SC61-10-2)

事務局から事務局配付資料の SC61-10-1, SC61-10-2 に基づいて、システム安全専門部会決議投票結果、以下の3標準について5年毎の改定要否の検討結果(改定不要)が可決されたことが報告された。

- ・”加圧水型原子炉一次冷却材の化学分析方法 — ほう素：2010”
- ・”加圧水型原子炉一次冷却材の化学分析方法 — 放射性よう素：2010”
- ・”加圧水型原子炉一次冷却材の化学分析方法 — 溶存水素：2010”

主な質疑等は以下のとおりである。

- ・フォーマットが古い。
- ・事業者側及び規制側からどういわれようと標準委員会・専門部会として改定要否をきちんと検討する必要がある。

審議の結果、上記3標準についての検討結果そのものはよいが、フォーマットについては検討する必要がある、標準活動戦略タスクでフォーマットを検討することとなった。

(13) 【報告】標準活動基本戦略タスク活動状況 (SC61-11-1, SC61-11-2)

標準活動基本戦略タスクの伊藤副主査から事務局配付資料のSC61-11-1, SC61-11-2に基づいて、標準活動基本戦略タスク活動状況について報告があった。

報告及び依頼事項として、活動の全体計画を標準委員会に報告すること、投票期限の延長について同タスクで判断するとしたこと及び各委員は期限内に必ず投票を行っていただきたいこと、委員会活動の貢献評価のため出欠や投票の管理を実施していくこと等が合意された。また本日の標準委員会において、新たに同タスクで対応することとなった事項について、今後検討を行っていくこととなった。

(14) 【報告】事務局関係(報告) (SC61-12)

事務局から事務局配付資料のSC61-12に基づいて、事務局関係について報告があった。

(15) 【報告】原子力安全検討会の実施状況について (SC61-13)

原子力安全検討会の成宮幹事から事務局配付資料のSC61-13に基づいて、原子力安全検討会の実施状況について報告があった。

(16) 【報告】深層防護WSの実実施計画について (SC61-14)

深層防護WS実行委員会の河井幹事から事務局配付資料のSC61-14に基づいて、深層防護WSの実実施計画について報告があるとともに、都合の付く方は参加いただくよう依頼があった。深層防護とPRAとの関係整理、有効性評価が重要とのコメントがあった。

(17) 【報告】安全性向上対策採用の考え方に関するタスクの実実施状況 について (SC61-15)

安全性向上対策採用の考え方に関するタスクの河井幹事から事務局から配付資料のSC61-15に基づいて、安全性向上対策採用の考え方に関するタスクの実実施状況 について報告があった。タスク報告書案は9月に最終報告の予定である。

(18) 【報告】3学協会及び標準活動基本戦略タスクでの学協会規格整備計画の検討状況 について (SC61-16)

標準活動基本戦略タスクの河井幹事から事務局配付資料のSC61-16に基づいて、学協会及び標準活動基本戦略タスクでの学協会規格整備計画の検討状況について報告があった。標準は規格と技術レポートから成るので体系化を踏まえた標準策定が重要とのコメントがあった。また、①規制庁の青木課長が電気協会シンポで「学協会規格を活用していく。そのため、根拠となる論文の充実、性能要求への適合、誤記を無くして欲しい」と述べたこと、②規制委と学協会協議会との意見交換で少数意見への丁寧

な対応の要望があったことから、これらは標準の品質向上として基本戦略タスクで引き続き検討することで合意された。

6 その他

次回は9月18日（金）13:30から

以 上